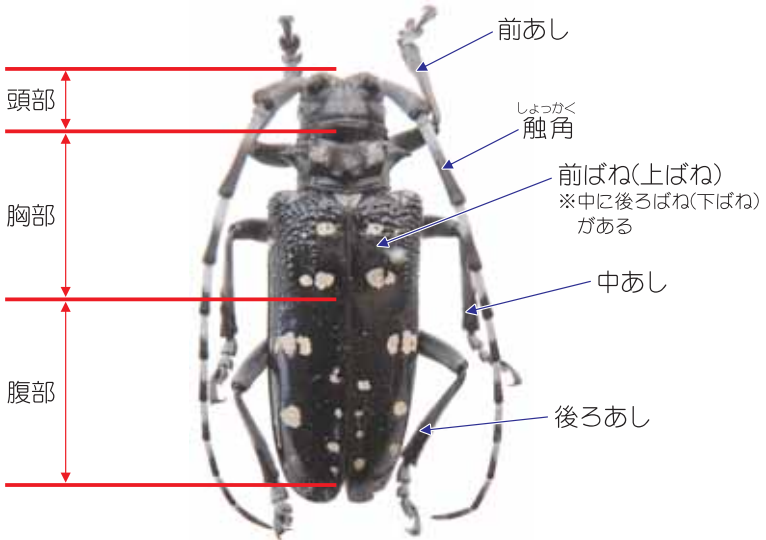
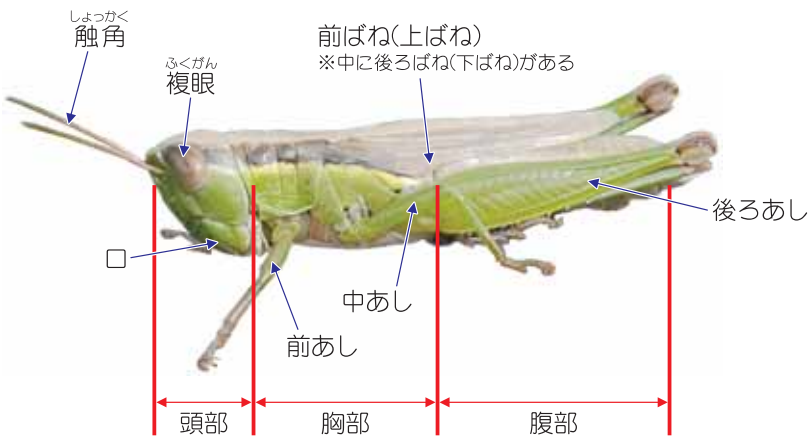


用語解説2

カミキリムシの体



イナゴの体

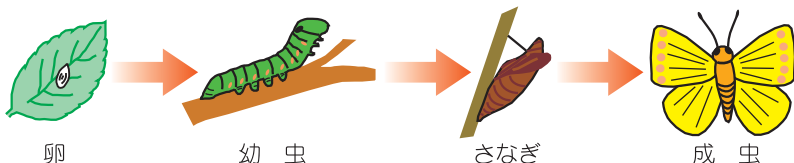


用語解説3

完全変態

卵 → 幼虫 → さなぎ → 成虫

このように幼虫と成虫の間にさなぎの期間がある昆虫の育ち方。
甲虫・ハチ・アブ・チョウなどの仲間がこれにあたる。



擬態

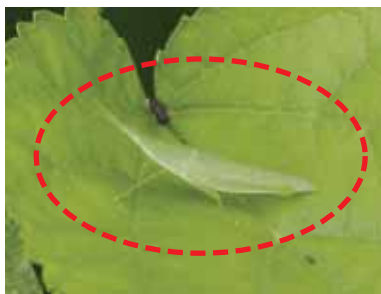
周りの環境に自分の姿を似せて、敵に発見されるのを防いだり、毒を持つハチなど有害な生物のふりをして、敵から攻撃されるのを避けたりすること。
逆に自分が攻撃するために、体の色や形、また姿勢や動作などまで似せる場合もある。



擬態

保護色

体の色が緑色だったり茶色だったりするバッタのように、敵に発見されないように体の色や形を周囲の環境に似せること。草の葉や地面にまぎれることができる。



オンブバッタ



クルマバッタモドキ

オギ・ヨシ原にいる昆虫



クツフムシ

キリギリス科

【分 布】本州(関東地方)～九州

【時 期】8～11月

【大きさ】50～53mm翅端まで
(翅含めないと25～36mm)

【食べ物】クズの花や葉、小昆虫の死骸など

【豆知識】鳴き声が馬の口にはめる「轡（つづみ）」の鳴る音に似ていることが名前の由来で、「ガチャガチャムシ」の名でも知られる。

緑型と褐色型がある。かつては低地の人家近くのやぶや河川敷に普通に見られた。**栃木県準絶滅危惧、群馬県絶滅危惧Ⅰ類、埼玉県絶滅危惧Ⅰ類、茨城県絶滅危惧Ⅱ類**

【渡良瀬遊水地での生息状況】ヨシ原の道沿いなどに生息し、渡良瀬遊水地では多い。



オンブバッタ

オンブバッタ科

【分 布】日本各地

【時 期】7～10月

【大きさ】雄25mm、雌42mm

【食べ物】キャベツ、ヨモギなど色々な植物の葉

【豆知識】親が子をおんぶしているように見えるのが名の由来。しかし実際は、雌が雄を背負い、交尾をする。ほとんどのバッタは、土の中にまと

めて産卵する。

【渡良瀬遊水地での生息状況】堤防、道端、広場などに最も普通にみられるバッタの一つである。

オギ・ヨシ原にいる昆虫

ショウリヨウバツタモドキ

バツタ科

【分 布】本州以南

【時 期】8～11月

【大きさ】雄27～35mm、雌45～57mm

【食べ物】イネ科植物

【豆知識】ショウリヨウバツタに似ているが肢は短い。チガヤなどイネ科の生えるところに見られる。「キチキチバツタ」とも呼ばれていたが、実際には羽音はしない。暖地性の種。

群馬県情報不足、埼玉県準絶滅危惧、茨城県準絶滅危惧

【渡良瀬遊水地での生息状況】ヨシ原などで見られる。ショウリヨウバツタに比べてはるかに少ない。



クギヌキハサミムシ

クギヌキハサミムシ科

【分 布】北海道、本州

【時 期】秋

【大きさ】21～36mm(ハサミ除く場合15～20mm)

【食べ物】

【豆知識】雄のはさみは平べったいが、先端は急に細くなり、名前の通り釘抜きのように曲がる。一般に山地に多いが平地にもいる。

栃木県要注目、群馬県情報不足

【渡良瀬遊水地での生息状況】ヨシ原に多い。栃木県では遊水地の他に数カ所いるが、遊水地以外では少ない。渡良瀬遊水地では秋に成虫が出現する。

